

【八千代地区】

「絞り染め」を使った被服実習授業の展開

— 家庭科教諭に引き継がれる授業力 —

1 はじめに

市立船橋高校の家庭科の授業では20年以上「絞り染め」を使った被服実習を行っている。その技法や授業展開などは、家庭科教諭が入れ替わっても脈々と受け継がれている。本校で今まで授業されてきた先生方の技術が詰まったこの授業を、多くの先生方に共有したいと考え、このテーマに設定した。

2 研修計画

- (1) 令和5年5月23日(火) 研究協議・テーマの決定
- (2) 令和5年8月2日(水) 研修会 船橋市立船橋高等学校 被服室 調理室

3 研修内容

(1) 絞り染め授業の特徴

絞り染めは、手縫いした後に絞るなどの方法で圧力をかけ、染料が染み込まないようにすることで、模様を作り出す。模様は生徒の自由な発想で描くことができ、オリジナリティのある作品に仕上がる。模様を出すためには手縫いで細かく縫う必要があるため、手縫い技術が向上する。本校では、長年エプロンをミシンで製作し、その後絞り染めをしてきたが、コロナ禍では、縫製済みバンダナを染めたり、実技検定4級の巾着袋を染めたり、形を変えて授業を実施してきた。授業時数やミシン使用の有無などに応じて、様々な作品に取り入れることが可能である。自分を表現し、個性的な作品づくりと、縫製技術の向上の両方が出来、さらに完成した作品を日常生活で使用する事が可能な実習である。

(2) 材料と道具

① 材料

- ・バンダナ(白 綿100%) ・手縫い糸(綿 100%)
- ・消えるマーカーペン(みやこ染) ・染料(技法用染料リアクト)
- ・ゴム手袋 ・塩 ・台所用洗剤

② 道具

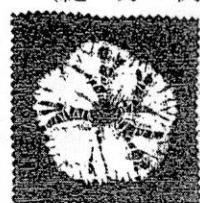
- ・洗面器 ・菜箸 ・計量カップ500ml ・ぞうきん ・裁縫道具

(3) 実習

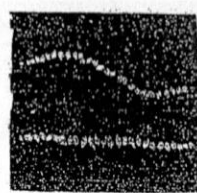
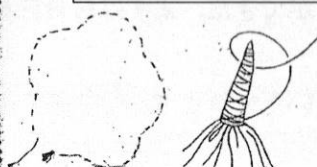
① DVD視聴

絞り染め全体のイメージをつかむ。絞りの技法を紹介し、どの技法でどのような図案に向いているかを理解する。

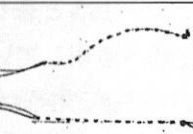
(縫い方の例)



平縫い巻き上げ絞り



平縫い引き締め絞り



② 図案考案・染料の色決め

生徒の個性を発揮できるオリジナリティのある表現を促す。どの図案がどの技法で表現できるか、確認しながら行う。

③ 縫う・絞る

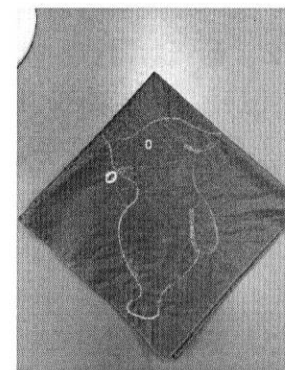
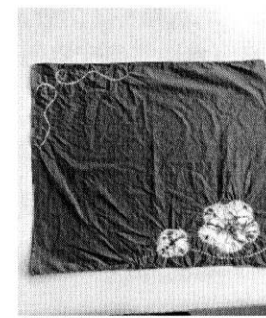
図案に合わせ、それぞれに応じた縫い方で縫う。5mm以内の幅が基本であるが、針目の大きさを変えると、模様の出方も変わり、表現の幅が広がる。縫い目を絞り、ほどけないように固く縛る。平縫い巻き上げ絞りは、糸をどの程度巻くかによって、模様の出方が変わる。

④ 染色

洗面器に染料を溶かし入れ、布を入れ20分間染める。お湯と、台所用洗剤で洗う。

⑤ 仕上げ(研修では行わず、持ち帰り各自で作業)

室内で陰干しし、乾いたら糸をほどく。アイロンをかける。



4 感想・考察

絞り染めを取り入れた作品づくりの実習は、生徒の個性を表現しながら、裁縫技術を高めることができる題材である。また、応用がきくので、生徒の実態に合わせた授業を展開することができ、それぞれの学校で効果的に取り入れることが出来ると感じた。

(参加者の感想)

・染料の取り扱いが思っていた以上に易しかったし、実習室も綺麗に使用されていたので、取り組みやすいと思った。

・単に絞り染めについて学ぶのではなく、それを授業でどのように扱っているのかというところが学べたので、すぐに自校の授業で取り入れることができる。

・生徒のつまずきやすいところやその際の対処方法の仕方、見本の示し方や、動画などとても勉強になった。

・染色は授業でやったことがなかったが、選択授業や、部活動などでぜひ取り入れてみたいと思った。

5 おわりに

本校に着任し、これまで勤務されていた先生方に長く引き継がれ、継続している授業があることを知り、大変驚いたとともに、これは家庭科教諭で引き継ぐべき財産でもあったと感じた。新しいことや、他業種の方から学ぶものも多くありますが、家庭科教諭の先輩方の蓄積された授業力は確かなものであると思う。1校1人体制の学校も多く、家庭科教諭の先輩から引き継ぐ場面が少ない状態である中、このような場で、これまで引き継がれてきた技法や授業展開を多くの先生へ共有できたことは大変意義深いと感じた。

最後に、今まで本校で勤務され、授業を継続されてこられた先輩方のおかげで今回の研修を行うことが出来ました。深く感謝申し上げます。